

# 町内遺跡

— おおはらし大原氏館跡・すもすも塚古墳 —

## 序

本町内の農地は、その80%余が既に基盤整備され、転用や開発に波止めが掛かるようになりました。しかし、土地開発の波動は止みそうにありません。農地に代わって、小丘や森や林が開発の対象とされ始め、その姿を変えようとしています。

競って荘園が開かれた時代、重い年貢に苦しんだ時、過酷な食料不足に悩まされた等々のときでさえ「あの丘には御先祖様が眠っておられるから…」「あの森はお城かお館の跡だから…」と「あの森に立ち入ると腹が痛くなるぞ」とか「あの林の木を伐ると身内にタタリがあるぞ」などと、迷信まで作り伝えて、何百年いや千幾百年もの間大事に守り通してこられた森や林。その日の食に事欠き、たとえ一坪・半坪の耕地でも、喉から手の出るくらい欲しかったときでも、敢て鎌や斧を、鋤や鍬を入れずに、今日まで、守り伝えられて来たところ…。

「すも塚」がそこです。「大原氏館跡」も、その一例です。

今回の調査は、試掘程度の小規模発掘で、所期の目的を果たすには不十分でしたが、その結果は、本誌記載のとおりです。後学の資となることを願っています。

この調査の実施、本報告書の作成には、御指導を賜ったり、労務を提供していただいたりと多くの方のお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

平成4年3月

教育長 西 秋 良 策

## 例 言

1. 本書は、文化庁・滋賀県の補助を受け、平成3年度国庫補助事業（総額880,000円）として実施した町内遺跡の調査概要をまとめたものである。
2. 調査は、滋賀県教育委員会文化財保護課の指導を受けて、山東町教育委員会が実施した。
3. 現地調査は、平成3年11月25日より11月30日までおこない、以後平成4年3月31日まで、遺物整理、報告書作成をおこなった。

4. 調査体制は下記のとおりである。

調査主体	山東町教育委員会	教育長	西 秋 良 策
調査事務局	山東町教育委員会 社会教育課	課 長	本 庄 康 男（平成3年8月まで）
	”	”	岡 田 勉（平成3年9月より）
	”	係 長	野 一 色 義 明
	”	主 任	丸 本 光 雄
	”	主 事	吉 田 裕 明
	”	主事補	岩 島 秋 彦
調査担当	”	主 事	桂 田 峰 男
調査補助員	谷口千夏		
調査作業員	（大原氏館跡） 堀田ときえ 上田久子 （すも塚古墳） 勝居源四郎 谷口貞藏		

5. 今回の調査地の地権者である馬淵尚之氏（大原氏館跡）、烏脇区の方〔区長勝居理氏〕（すも塚古墳）には多大な御協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。
6. 本書の編集・執筆は、桂田がおこなった。

# 目 次

序

例 言

## I. 坂田郡山東町大原氏館跡

- |                |   |
|----------------|---|
| 1. 調査の経過 ..... | 1 |
| 2. 調査概要 .....  | 3 |
| 3. おわりに .....  | 5 |

## II. 坂田郡山東町すも塚古墳

- |                |   |
|----------------|---|
| 1. 調査の経過 ..... | 6 |
| 2. 調査概要 .....  | 8 |
| 3. おわりに .....  | 9 |

## 挿 図 目 次

### 図 1 調査地周辺図

#### I. 大原氏館跡

図 2 地形図（「滋賀県中世城郭分布調査 6」より） ..... 2

図 3 出土土器実測図 ..... 3

図 4 遺構図及び断面図 ..... 4

#### II. すも塚古墳

図 5 トレンチ設定図 ..... 7

図 6 断面図 ..... 7

図 7 すも塚古墳（現状）地形図 ..... 9

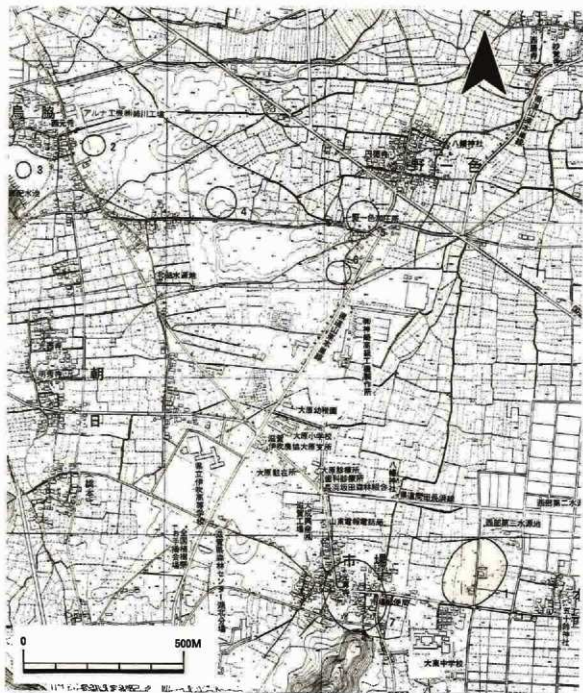
## 図 版 目 次

### 大原氏館跡

- 図版一 1. 調査地遠景
- 2. 調査前風景
- 図版二 3. 作業風景
- 4. 作業風景
- 図版三 5. 第1トレンチ
- 6. 第1トレンチ断面
- 図版四 7. 第2トレンチ
- 8. 第2トレンチ断面
- 図版五 9. トレンチ埋めもどし作業
- 10. 出土遺物
- 図版六 11. 大原氏館跡
- 12. 大原氏館跡 五輪塔

### すも塚古墳

- 図版七 1. 調査地全景
- 2. 作業風景
- 図版八 3. 第1トレンチ
- 4. 第2トレンチ断面
- 図版九 5. 第3トレンチ作業風景
- 6. トレンチ埋めもどし作業
- 図版十 7. すも塚古墳（現状）と墳丘上に建てられた石碑
- 8. 明治45年土取作業中に出土した石材



- |          |          |            |
|----------|----------|------------|
| 1. 大原氏館跡 | 2. すも塚古墳 | 3. 猿田彦女命古墳 |
| 4. めか塚古墳 | 5. 今中遺跡  | 6. 正林坊遺跡   |
| 7. 寺屋敷遺跡 |          |            |

図1 調査地周辺図

I. 坂田郡山東町 大原氏館跡



## 1. 調査の経過

大原氏館跡は、別名大原判官屋敷跡とも呼ばれ、鎌倉時代以来の有力御家人である佐々木大原氏の館跡として注目されており、土塁や堀の一部が今なお良好に残っている。

しかし、近年当館跡周辺において宅地造成が行なわれ、また道路敷設の構想がもち上がるなど、遺跡の保存が急務となってきた。

そこで今回、文化庁と滋賀県教育委員会の指導と補助を受けて、遺跡の正確な範囲と内容を把握するために、遺跡の南西端にあたる馬淵尚之氏所有の土地（山東町大字本市場字堀之西 143、144-1 番地）を、同氏の御理解と御協力を得て調査地とし、調査を実施した。調査面積は約 50 ㎡で、現地調査の期間は、平成 3 年 11 月 25 日から 27 日までである。

### 位置と環境

山東町は、伊吹山系、横山丘陵、雲仙・鈴鹿山系と四方を山々に囲まれ、北端に姉川が西流し、南に天野川が流れる。これらの河川は肥沃な沖積平野を形成しているが、その範囲は小さく、また多数の低小丘が点在するなど、複雑多岐の様相を呈している。

また、幹線的に見ても、古代三関の一つである不破の関にも近く、中山道が通り、北国脇往還道、北国街道などの主要道が巡るなど、山東町は主要街道の近江への出入口にあたり、政治・戦略の上で常に重要な位置を占めていたことになる。

このような条件により、町内には多くの城・砦・館跡などが残っているわけであるが、平地の居館の中では、現集落と重複するものが多く確認されている。大原氏館もその一つと言える。

滋賀県教育委員会が編集した『滋賀県中世城郭分布調査 6（旧坂田郡の城）』（1989）に、

「大字本市場にあり、往古は庄中村と称す。近江源氏佐々木氏四派に分流せし時、大原の庄を与えられて重綱を祖とする大原氏の屋敷跡、現在も判官屋敷として在地の人々に親しまれる。8千貫の地頭として室町時代には將軍の奉公衆に列して

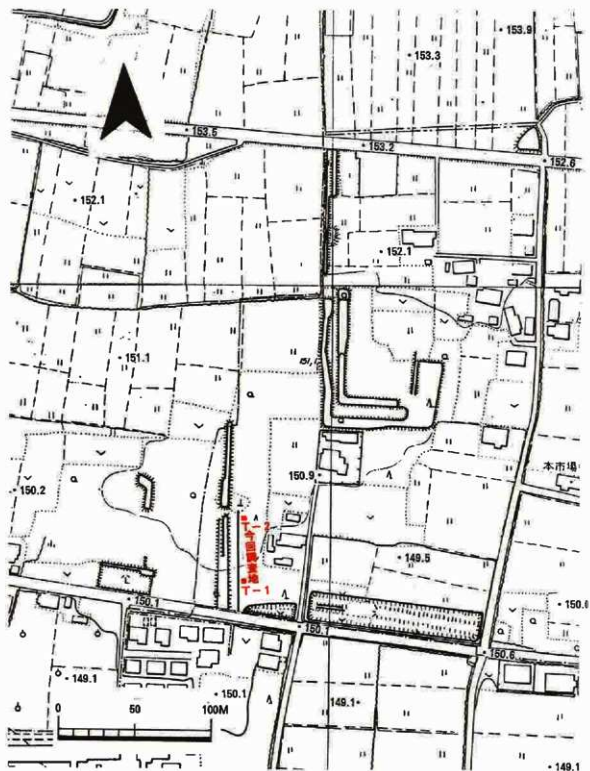


図2 大原氏館跡地形図「滋賀県中世城郭分布調査6」より

いたが、後には六角氏より入嗣、信長の時代、六角氏と共に亡んでいる。現在、竹林、植林地の中に二方に立派な土塁堀・土塁が残存しており、往時を偲ぶことができる。尚此の外側にも土塁等残次が認められたが現在はない。(以下略)」と紹介されている。同書にも述べられているが、「堀ノ内」「構(かまえ)」「中屋敷」などの小字名にその名残りをみることができる。

## 2. 調査の概要

今回の調査は、遺跡の範囲確認と内容の把握を目的とし、現在周知されている遺跡の南西端を調査地として、2ヶ所のトレンチを設定した。そして遺構面もしくは、遺物包含層までバックホウを用いて掘削した後に、作業員等によって精査し、順次図化と写真撮影を進めた。

### 第1トレンチ(T-1)

このトレンチは、調査地の南に設定したトレンチである。層序は、表土と第2層黒色砂質土(混礫)の2層のみである。遺構、遺物は確認されなかった。

### 第2トレンチ(T-2)

第1トレンチの北約40mに設定したトレンチで、表土、第2層黒色砂質土(混礫)、第3層淡黄色粘質土(混礫)、第4層淡黄色砂質土の順で堆積していた。この内、第3層上面で柱穴と思われる跡を3ヶ所確認した。掘り方0.3~0.5m、深さ0.3~0.5mを測り、楕円形、円形を呈しており、淡茶色粘質土が充填していた。また各々の柱穴から土師器片が少量出土しており、最も北に位置する柱突(P1)より出土した遺物は、復元口径15cmを計り、大きく外方へ立ち上がり、口縁端部は比較的尖り気味に収まる。外面上方にヨコナデを施している。底部が欠落しているので断定はできないが、おそらく16世紀頃のものと思われる。

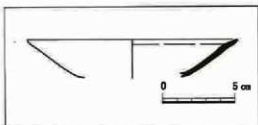


図3 第2トレンチ P1出土土師器実測図

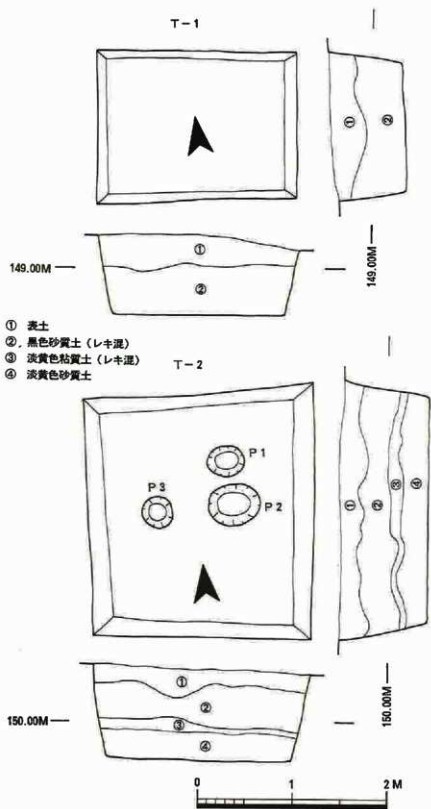


図4 遺構図及び断面図

### 3. おわりに

今回の調査では、調査の概要で述べたように、柱穴と16世紀頃と考えられる土師器片が検出された。これだけの資料で大原氏との関連を述べるのはかなり無理なものがあるが、仮に大原氏と関係するものとすれば、15世紀後半より活躍した大原氏第11代政重以降、高保・高賢の時代に比定される。政重は、長享元年（1487）9月、將軍足利義尚による六角高頼征伐に幕府方として参戦したとされる。しかし政重には実子がなかったことから、佐々木宗家である六角氏から高頼の三男の高保を養子に迎え、大原氏第12代とした。高保は、永正17年（1520）の三好之長の攻撃、將軍足利義晴の入洛、天文15年（1546）12月の足利義輝將軍宣下の式に列している。この高保にも実子がなく、高保同様、六角氏より養子を迎えている。六角義賢の三男高賢（賢永）である。しかし高賢以降、大原氏の系譜は定かでなく、宗家の六角氏と共に滅亡したとされている。

この様に、室町時代の後期から戦国時代にかけては、大原氏にとってその終焉を迎えようとする時期にあたる。逆に言えば、この時期まで大原氏は存続していたことになるが、今回の調査がそれを裏づけるには、遺構、遺物等資料的に不十分であったのは残念である。今後の課題としたい。

## II. 坂田郡山東町 すも塚古墳

## 1. 調査の経過

すも塚古墳は、町内に数多く周知されている古墳の中でも、時代等が確認されている古墳の一つである。

近年、当古墳の周辺において分譲住宅の建設、土砂採取、工場の進出などの開発が進められ、徐々にではあるが古墳を取り巻く環境が変化してきた。

そこで、文化庁・滋賀県教育委員会の指導と補助を受けて、遺跡の範囲を確認し、内容を把握することを目的として、土地所有者である烏脇区（区長・勝居理氏）の御理解と御協力を得て調査を実施した。調査面積は約75㎡で、現地調査期間は平成3年11月28日から30日までである。

### 位置と環境

今回調査対象となったすも塚古墳は、調査地の北を西流する姉川によって形成された肥沃な平野部である、いわゆる“大原野”の西端に位置し、大字野一色字西浦606番地に所在する。土地の所有については、烏脇区となっている。

周辺には、縄文・弥生時代とされる遺跡は周知されていないが、古墳時代に下ると、西側の横山丘陵及び丘陵より派生する大小の尾根上に、犬飼古墳、猿田彦女命古墳、烏脇A古墳、西山古墳、中の谷古墳などが点在し、平地ではぬか塚古墳が周知されている。この中で猿田彦女命古墳は、土砂採取により消滅してしまったが、当時の見聞によると墳丘は版築状に土砂を盛り上げており、横穴式石室墳とは異なる盛土法であったらしく、また石材等の出土が確認されていないことから、おそらく中期頃の木棺直葬であったと言われている。その他、周辺の古墳については、その多くが規模、性格等を明確し得ないのが現状である。

すも塚古墳は、明治45年に烏脇の西元寺本堂改築の為の土取作業中に発見されたもので、土取りの際に石が出たのでその石を掘り出したところ、その下から須恵器、直刀、轡、金環、銀環などが出土し、およそ6世紀後半から7世紀初頭にかけての横穴式石室を持った古墳であったと考えられている。

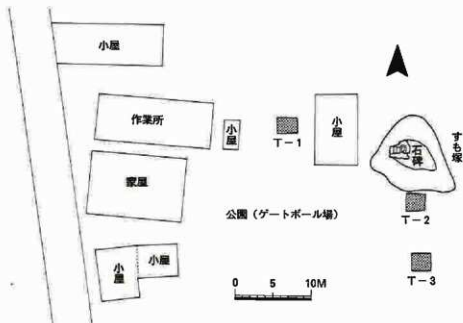


図5 トレンチ設定図

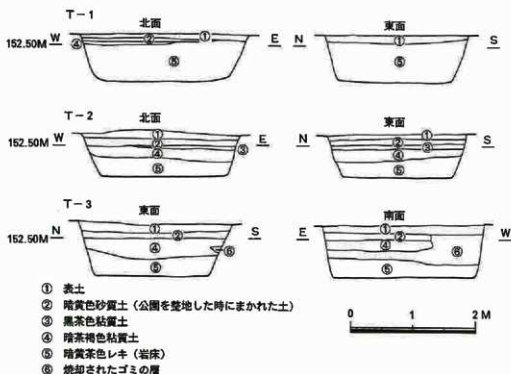


図6 断面図



## 2. 調査の概要

すも塚古墳は先にも述べたように墳丘の大半が消滅しており、墳丘の規模、周濠の有無、石室の位置・規模等の詳細は不明である。そこで今回、これらのことを少しでも明らかにするために、現在僅かに残っている墳丘から判断して、遺構等の検出が予想される地点に、約2×2m程度のグリッドを3ヶ所設定し、バックホウを用いて掘削することとした。

### 第1トレンチ(T-1)

調査区の最も北寄りに設定したトレンチである。層序は、表土(暗茶色)、第2層暗黄色砂質土(公園を整地した時に撒かれた土)、第3層暗茶褐色粘質土、第4層暗黄茶色の岩盤で、いわゆる単純層である。遺構・遺物は確認できなかった。

### 第2トレンチ(T-2)

このトレンチは現存する墳丘の南側に設定したトレンチである。層序は、表土、第2層暗黄色砂質土、第3層黒茶色粘質土、第4層暗茶褐色粘質土、第5層暗黄茶色の岩盤で、遺構・遺物は確認できなかった。

### 第3トレンチ(T-3)

第2トレンチの南に設定したトレンチで、表土、第2層暗黄色砂質土、第3層黒茶色粘質土(混雑)、第4層焼却されたゴミの層、第5層暗黄茶色の岩盤が堆積する。なお、このトレンチの南西、公園の南端にあたる地点から須恵器などが出土しているが、今回関連づけられる遺構・遺物は確認できなかった。

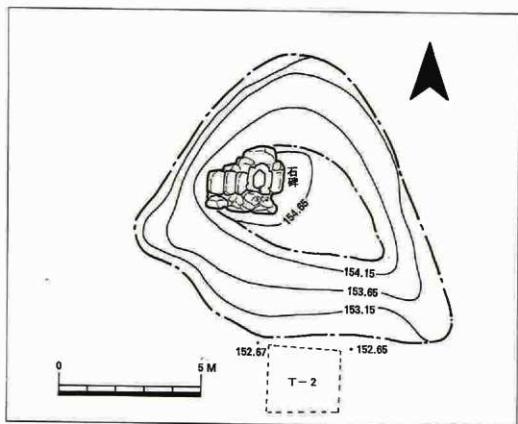


図7 すも塚古墳（現状）地形図

### 3. おわりに

今回の調査は、遺跡の正確な範囲、石室の明確な位置・規模などを明らかにすることを目的として調査を実施したが、すも塚古墳に関連する遺構・遺物は確認できなかった。明治45年の土取作業中に消滅してしまったことになるのか。それは定かでないが、今後、僅かに残存している部分の保護と整備を含めた形で調査を進めていきたいと考えるものである。

圖 版



1. 調査地遠景



2. 調査前風景



3. 作業風景



4. 作業風景



5. 第1トレンチ



6. 第1トレンチ断面



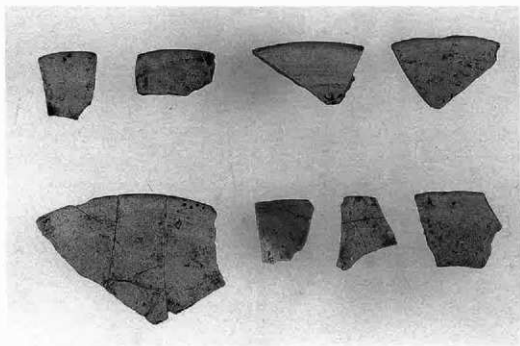
7. 第2トレンチ



8. 第2トレンチ断面



9. トレンチ埋めもどし作業



10. 出土遺物





11. 大原氏館跡



12. 大原氏館跡 五輪塔



1. 調査地全景



2. 作業風景



3. 第1トレンチ



4. 第2トレンチ断面



5. 第3トレンチ作業風景



6. トレンチ埋めもどし作業



7. すも塚古墳（現状）と墳丘上に建てられた石碑



8. 明治45年、土取作業中に出土した石材

山東町埋蔵文化財調査報告書 Ⅶ

町内遺跡

— 大原氏館跡・すも塚古墳 —

1992年3月

編集・発行 滋賀県坂田郡山東町教育委員会

印刷 立木印刷

